

平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 28 年 11 月 30 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学人間発達文化学類

申 請 者 名 渡邊 晃一

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・○その他の特別事業)
事 業 名	「福島ビエンナーレ」および関連シンポジウム 「科学×芸術～放射線防護に関する科学者・医師・法律家・芸術家による国際会議～」
事業実施期間	2016 年 10 月 7 日 (金) ～9 日 (日)
成 果 の 概 要	<p>「福島ビエンナーレ」関連シンポジウム 「科学×芸術 放射線防護に関する科学者・意思・法律家・アーティストによる国際会議」 会場：福島県二本松市 男女共生センター</p> <p>パネリスト： コルネリア・ヘッセ＝ホネガー（イラストレータ：オランダ） ヤノベケンジ（アーティスト・京都造形大学教授） 岡部昌生（アーティスト・札幌大谷短期大学名誉教授） ブリス・セシル（フランス国立科学研究センター） セバスチャン・プフルークバイル（ドイツ放射線防御協会）</p> <p>コーディネータ 渡邊晃一（福島大学 人間発達文化学類 教授）</p> <p>その他、ビエンナーレの参加アーティストに御登壇いただいた。</p> <p>今年度、「福島ビエンナーレ」は二本松市を舞台に、霞ヶ城、安達が原のふるさと村、智恵子の生家、道の駅などで開催した。その中で、二本松の男女共生センターを会場にシンポジウムを市民科学者国際会議との共催で開催した。</p> <p>2016 年は、チェルノブイリ事故がおこった 30 年目の時期であり、放射線に関わる科学者、医師、アーティストなど様々な専門家による講演や討議を通して、震災後の福島環境汚染、人口構成の変化など、先の見えない社会問題とその不安に対応するために、国際的な研究者とのネットワークを維持発展させた。芸術家、科学者、地域住民の方々が会して情報共有、意見交換をし、その最善の可能性を長期にわたって探っていくための機会を提供することで、福島の未来を見つめる契機となった。</p> <p>とりわけ福島大学芸術による地域創造研究所が中心となって開催したシンポジウムでは、チェルノブイリの事故以後、放射線の防御に関わるアート活動をしてきた専門家を「福島ビエンナーレ」と重ねて招待し、芸術活動と科学的見解との対話を中心に行った。</p>

コルネリア・ヘッセ = ホネガー 作品リスト

リスト 1

作品番号 1 (ファイル: Ti_13)

アワフキムシ

スイス・ティチーノ州で採集

1988年

オリジナル: 29.7 x 21 cm

水彩

真ん中の左脚関節から小片が突出している

作品番号 2 (ファイル: TW_08)

ヒメナガメ

米国スリーマイル島原発周辺で採集

1992年

オリジナル: 48 x 37 cm

水彩

小楯板がねじれ、黄色の斑点が非対称になっている

作品番号 3 (ファイル: Go_04)

カスミカメムシの頭部

スイス・ゲスゲン原発近郊で採集

1988年

オリジナル: 29.7 x 21 cm

水彩

目に胞のうがででき、個眼面が不規則になっている

作品番号 4 (ファイル: TW_03)

オオヨコバイの頭部

米国スリーマイル島原発対岸のゴールズボロで採集

1992年

オリジナル: 42 x 29.7 cm

水彩

右目に胞のうがででき、目の赤色が頭部にも見られる

作品番号 5 (ファイル: LE_02)

シリアゲムシ

スイス・ライプシュタット原発近郊のロイエンタールで採集

1988年

オリジナル: 29.7 x 21 cm

水彩

右の羽が変形し、腹部の体節が膨んでいる

作品番号 6 (ファイル: LE_03)

シリアゲムシ

スイス・シェーネンヴェアトで採集

1989年

オリジナル: 29.7 x 21 cm

水彩

正常なシリアゲムシ

作品番号 7 (ファイル: Go_01)

ツヤカスミカメ

スイス・ゲスゲン原発近郊で採集

1988年

オリジナル: 29.7 x 21 cm

水彩

羽の長さが左右で異なる

作品番号 8 (ファイル: SW_02)

カスミカメムシの幼虫

スウェーデン・エスターフェルネボで採集

1987年

オリジナル: 21 x 29.7 cm

左の羽が2つに分裂している

